

がんばった学芸会

1年

- ・ いえでおとうさんとおかあさんが、「よくできたね。よくがんばれたね。」といってくれました。れんしゅうをしたらうまくできるんだということがよくわかりました。じぶんでもびっくりしています。
- ・ せりふがいっぱいあったけれど、おぼえられて大きなこえでいえてよかったです。よくがんばったなあとおもいます。
- ・ どれもたのしかったです。けんばんハーモニカがうまくふけました。すもうの「ともはなだ」ができてよかったです。4ねんせいのげきがおもしろかったです。またみんなでやりたいです。
- ・ いえにかえったらおとうとが、「ちゃんががんばったね。」といってくれました。つぎはおかあさんが、「ちゃんほんとうによくできたね。」といってくれました。みんなのまえでどうどうとむねはってできました。がんばったらがんばただけいいということがわかりました。
- ・
- ・ 人のまえで大きなこえでせりふをいえるようになりました。おかあさんが、「じょうずにできたね。」といってくれました。2年生になったらまたたのしくやりたいです。
- ・ 「みんなのあそびば」のげきがあったから、けんだまやこまの手のせができるようになりました。じぶんでもげきをつくりたくなってきました。もっともっといろんながくげいかいをしたいです。
- ・ いえにかえっておかあさんに、「けんばんハーモニカ、じょうずにできたね。」といわれてわたしはうれしかったです。おかあさんがビデオをとってくれていていえでみたら、きんちょうしていなかったから、おかあさんがとてもびっくりしていました。

2年

- ・ とてもきんちょうしていました。「みんなのあそびば」は、きんちょうしていてふるえました。1年生も大きなこえでいっていたのでよかったです。



4年

- ・ おもしろいことを言ったときにみんなが笑ってくれたことが心に残りました。じゅんぴがともうまくいきました。たくさん練習したから、かんたんにできたのだと思います。げきの途中ではだしになった時、とても足が冷たかったので、こっそり足を上げていたことがおもしろかったです。
- ・ 大きな声でセリフを言えたことが一番心に残っています。そのわけは、家に帰ったときに、おばあちゃんが「すごく大きな声で聞こえていたよ」とほめてくれて、とてもうれしかったからです。5年生になっても、大きな声が出せるよう、たくさん練習したいです。



- ・ 大道具を作ることが心に残っています。その中でも、背景の絵をかくことが特に楽しかったで、そのわけは、大きな紙に、ごうかいにポスターカラーで色をぬったのは初めてだったからです。またやりたいです。学芸会では、自信をもって大きな声が出せるようになりました。たくさん練習したからだだと思います。

5年

- ・ 緊張してセリフをまちがえて、私の役の時は、はずかしかったけど、心に残る学芸会になりよかったです。来年で最後だから、がんばって来年はセリフをまちがえないようにしたいです。学芸会はとっても楽しかったです。

- ・ 寿限無は、ほぼ、トップバッターだったので、緊張しました。セリフの長いおしょう役は上手いききました。音楽では、威風堂々のピアノがしっかりひくことができたのでよかったです。両方とも、楽しくやる事ができたのでよかったです。
- ・ 緊張した。『寿限無』は、声がちょっと小さいと思った。音楽は、きれいにそろっていてよかったです。でも、緊張していて手がふるえていた。1・2年生の劇は、とてもおもしろかった。楽しかったです。



- ・ 11月12日の学芸会、『寿限無』の劇をやった、思ったより緊張しませんでした。音楽では、初めの前奏を木琴でやった。ビリーブをやった、次に、威風堂々でリコーダーをまわがえすにできました。劇と音楽、どちらもうまくできたのでよかったです。

6年

- ・ 私の役は女の子のナツとテレビ局の人をやりました。練習ではいつもまわがえていたところがありました。それは、テレビ局の人のせりふでした。何度も練習をしてきました。私の中の点は、99点くらいだと思います。きちんと手や首をふったりしていたので忘れずにできてよかったですと思いました。
- ・ ぼくは、これで最後の学芸会です。幕が開いて始まりです。せりふをがんばって覚えました。時には、全然できなくて、せりふ覚えを宿題にしていた時もありました。せりふを言うので精一杯で、動作があまりできなくて、苦労しました。この劇はみんなが助け合わなければできませんでした。みんなのコンビネーションを高めるためには一人ひとりを築きあうことです。学芸会はみんなで協力できて、いい劇になってよかったなと思いました。
- ・ 私は練習の時、苦労したところは、衝撃音でこわれる様子を表すのが苦労しました。あとタイミングを表したり、動作をつけたりするのに苦労しました。本番、舞台上立つと足が震えました。でも、動作もつけられたし、衝撃音でこわれた様子が表せました、「よかったぁ。」と思いました。劇が終わってどんちゃんが下がるとみんなで「終わったぁ。」と言いました。そして、みんなで肩を組んで「成功、ヤッター。」と言って終わりました。

- ・ 初めに台本をもらったときぼくは、学芸会まで全部覚えるぞ、と思いました。でも言葉が難しくて、あまり読めませんでした。でも「これが読めなくちゃ動作もつけられない。」と思いました。だから、毎日毎日台本を見ては、何度も口に出して言いました。劇と劇の間に「〇×ゲーム・じゃんけんゲーム・ステレオゲーム」を担当したことも楽しい思い出となりました。思い出になる学芸会でした。

- ・ 練習の時、時には友だちどうして「あそこのせりふはつまっていたから練習した方がいいよ。」など、友だちだから言ったら気を悪くするのではないか…ではなくて、すごくいい学芸会にするために、お互いに言おうと思いました。私たちの劇は一番、最後でした。自分のせりふがくるたびに足が震えていましたが、幕に入って友だちが「みんな、ゆっくり、落ち着いて。」と言う言葉に緊張が少しほぐれました。そして無事成功しました。

- ・ 最後の学芸会が終わり今はほっとしています。一つ目にせりふを一つも飛ばさずに言えたことがとてもうれしいです。二つ目は動作がつけられたことです。三つ目は練習してきて、その成果が全部発揮できたことです。沢山練習してきてよかったなと思いました。今年で最後はいやだなぁと思います。中学生になるともう学芸会は無くなるのでさびしです。またやりたいです。

- ・ みんな緊張しながら持ち場につきました。ぼくはきんちょうをおさえようとそでで、話していました。でも、みんななんとなく元気がありませんでした。第四場面、これで劇のほとんどがきまるぐらい大切な場面です。みんなの緊張も一番高くなる時です。けれどみんな一つも言葉をとばさずに言っていました。これが終わってみんなホッとしているように思いました。

